

道輪口説

凡て二百七十六拍子 一拍子五分脈

…繰返し

工五七八四七〇五工五尺工四合〇

四フイトウタビサカキバフイトウタビ

四ウトウル合工ユヌナカヌナレ

合五七八四七〇五工五尺工四合〇ウ

四ムキシルミヌアワリハガ

尺ナヤ〇尺ス〇ス〇ワ工ワ尺工

五ムスイン老デイカタニウ

尺チカキ合五七八四七〇五工五尺工

四合ヤツイリインヂタルスイガ

乙タクトウバンイマニフイチカ

四キ合五七八四七〇五工五尺工四合

〇シマヌシマジマサトウヌサ

道輪口説

上	トウ
四	ザ
合	トウ
工	
五	ミ
七	グ
五	リ
工	ミ
尺	グ
工	リ
四	テイ
合	

五	
七	
八	
四	七
〇	五
工	五
尺	五
合	工
〇	ニ
四	ン

乙	ヂョウ
四	ケ
上	ン
四	ショウ
乙	リ
四	
〇	フ
四	トウ
乙	キ
四	ケ
上	ン
四	ショウ

合	リ
工	ニ
五	ン
七	ヂョウ
五	ヌ
工	カ
尺	ズイ
工	カ
四	ズイ
合	
五	
七	

八	
四	七
〇	五
工	五
尺	五
工	
四	合
〇	ウ
四	チ
乙	リ
四	ク

上	ブ
四	シ
乙	ニ
四	
〇	ワ
四	カ
乙	シュ
四	ニ
上	ン
四	ヂョウ
合	
工	ウン

五	マ
七	ヌ
五	キ
工	
尺	ブ
工	トウ
四	キ
合	
五	
七	
八	
四	七

〇	五
工	五
尺	五
工	
四	
合	クリ
〇	ン
四	テイ
乙	
四	
上	ワ
四	ラ

乙	ビ
四	
〇	ナ
四	リ
乙	ク
四	ツイ
上	ツイ
四	ミ
合	ヤ
工	ホ
五	ロ
七	ロ

五	ン
工	ホ
尺	ロ
工	ロ
合	ン
工	ホ
五	ロ
七	ホ
五	ロ
工	
尺	ホ
工	ヲツ

四	ト
合	
五	
七	
八	
四	七
〇	五
工	五
尺	五
工	
四	
合	

一、一度栄えば一度衰ふ世の中の習

思ひ知る身のあはれ果敢なや

裾は結んで肩に打ち掛け

やつれ出たる姿言葉も今に引きかへ

島の島々里の里々巡りめぐりて

人形買ひんしやうれ仏買ひんしやうれ

人形の数々

起上り小法師に若衆人形馬乗仏

これ見で童鳴子鼓や

ホロロンホロロンホロホロホツト

二、空も長月はじめ頃かや四方の紅葉を

そめる時雨にぬれて牡鹿の

なくもさびしき折に告げくる

雁の初音に心うかれてともうちつれ

出る野原の桔梗荳蔻の錦を

きてもみよとや招く尾花が袖の夕風

吹くも身にしむ夕日入江の

海士のころもや

さおのしづくに袖をぬらして

波路はるかに

沖に漕ぎ出て月は東の山の木の間に

今ぞほのめく